

上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心としたe-ラーニングシステムの基礎整備

著者	堀 良子, 橋本 明浩, 水口 陽子, 松下 由美子, 岡村 典子, 水澤 久恵, 渡部 江里子
雑誌名	看護研究交流センター年報
巻	18
ページ	9-10
発行年	2007-09
URL	http://hdl.handle.net/10631/378

上越地域における訪問看護師のコミュニティを中心とした e-ラーニングシステムの基盤整備

堀良子¹⁾, 橋本明浩¹⁾, 水口陽子¹⁾, 松下由美子¹⁾, 岡村典子¹⁾, 水澤久恵¹⁾, 渡部江里子²⁾

1) 新潟県立看護大学, 2) 訪問看護ステーションテンダー上越

キーワード：訪問看護師, 相互学習, ネットワークシステム

目的

これまで、看護研究交流センター地域課題研究の一環として、訪問看護師の看護技術に関する教育・研修ニーズや安全で適切な技術の提供を取り巻く諸問題等に取り組んできた（堀良子他, 2003；堀良子他, 2004）。訪問看護師は専門的な判断能力・技術力が要求され、不断の能力アップの必要性和そのためのニーズが高い。しかしながら現状では、「忙しい」「研修に出すだけの人手の余裕がない」など小規模施設ならではの問題を抱え、1 訪問看護ステーション（以下ステーションという）のみの対応には限界がある。そこで、居ながらにして経験を分かち合い、知識の取得を可能にすることにより、問題の解決や訪問看護の質の向上に寄与することができると考え、パソコン上で、訪問看護師が仲間同士、あるいは大学と相互に情報交換しあったり、インシデント・アクシデント事例や成功事例、珍しい事例、新しい技術等学習したりするネットワークシステムを作るための基盤整備を図った。

研究方法

次の経過によりアクションリサーチで行った。

1. 研究趣旨の呼びかけ
いくつかのステーション管理者に協力の呼びかけを行った後、上越地域 13 ステーションへの文書による説明と訪問しての具体的な説明と質疑応答（10 月～11 月）を実施した。
2. 第 1 回打ち合わせ会開催
賛同した 55 施設のステーションを対象に大学において、今後の進め方、何がどのようにできるかの話し合いとともに、実際のイメージづくりを行った（12 月 18 日）。
3. ネットワーク環境の聞き取りと調整
インターネットの使える環境の確認と施設長の許可を得るための調整、実際にその環境で使用可能な機器の整備を行った。
4. ネットワークシステム設定原案の検討、業者への依頼
仮掲示板完成（2 月中旬）
5. メンバー教員向けブログ講習会の実施（2 月）
6. 掲示板の試運転と微調整、掲示板完成（3 月）
7. 掲示板の使い方講習会の実施（4 月）
メンバーの訪問看護師、本学教員を対象とした掲示板の使い方講習会を実施し、4 月 20 日に掲示板を始動させた。

結果

1. 参加ステーションとネットワーク環境の整備

趣旨の呼びかけに対しステーション管理者は一応に興味と関心を示した。しかし中にはコンピュータに対する職員の苦手意識を表明する施設、時間的余裕がない、業務上困ってわからないことがあれば訪問看護財団に質問すると答えてもらえるなどと回答した施設があった。賛同して参加の意思を表明したステーションの管理者は 5 名であった。その中で 11 施設については病院併設のステーションであったが、ネットワーク設備において病院との調整ができなかったため参加できなかった。結果 4 ステーションと大学の 6 人の教員メンバーでのスタートとなった。

ステーションのネットワーク環境においては、すぐにでも使えるインターネットが可能な設備を有するステーションは 1 施設のみであった。他は事業所内の隣室（事務所・在宅介護支援センター等）までは LAN が接続しているが、ステーションには LAN がない施設であった。この内 ADSL 回線の 2 施

設については無線 LAN を使用，ISDN 回線の 1 施設については PHS 回線を利用したモバイルを使用して整備した。

2. パソコンソフトのインストール

安全対策として，施設内で通常の業務で使用する基幹系ではないネットワークへの接続が必要と考え，基幹系とは区別して情報系のパソコンとして活用すること，およびウィルス対策ソフトをインストールすることを行った。続いて必要性・利便性の観点から，ホームページの閲覧やブログの書き込み等に必要な Windows XP，アクロバットリーダー，ビューア，フラッシュプレーヤーをインストールした。

3. 掲示板の設定

メンバー同士の交流や学習に支障をきたす，不正アクセスや外部利用などがないように安全性を確保する観点から，設定を会員制のホームページとし，書込は会員以外の外部者が閲覧できないようにした。したがって，ホームページ入り口のログイン名とパスワードを設定し，掲示板の書き込み時にメンバー個人のログイン名・パスワードを設けるようにした。さらに必要性・利便性の観点からは，Movable Type のブログとして，カテゴリー名をつけ投稿内容の分類ができることと投稿内容へのコメント書き込みができるようにした。また，カテゴリー名の変更が可能，記事の振り分け変更があとからできる，スタイルの設定ができる等の工夫を加えた。

4. 始動後の活用状況

掲示板が始動してしばらくは書き込みがなく，研究者が働きかけたこともあったが，その後週に 1-2 件の書き込みがある状況となった。書き込みの内容は今のところ，「教えてほしいこと」，「仲間への励ましや思いやりの言葉かけ」となっている。教えてほしいことは梅創の処置方法に関してや倫理上の考え方，新しい教育指導法等についてであり，主に大学教員が対応している。仲間への励ましや思いやりの言葉かけは月末の請求業務を励ましあったり，ほっと一息つけるところの紹介やお誘い，管理者研修参加のねざらいなどである。

考察と今後の展望

対象とした訪問看護ステーションの管理者は趣旨の説明に対し，一応に興味と関心を示したが，参加するかしないかはコンピューターリテラシーと業務に対する取り組み姿勢によると思われた。また管理者が積極的であっても，ネット環境の整備は，パソコンに明るくないことや予算上自力ではむずかしい状況であった。米国では各家庭が遠隔地に存在している場合も多く，ネットワークを使用するのケアの手法がテレケア，テレナーシングとして定着している。わが国においては地域医療をネットワークでつなぐシステムは自治体などで種々試みられているもののまだ定着までには至っていない。訪問看護におけるネットワーク利用は上越地域の状況から類推すると現状ではまだ遠いと考えられる。今回限られた地域の少数の試みではあるが，情報系のネットワークシステムとして活用できるように整えたことは，今後の種々の可能性を広げる意味で意義深いといえる。今後はこの活用成果を示すことをはじめ，パソコンが業務内に欠かせないものとして，仕事のさまざまな可能性をもつ手段として活用されるよう展望し，相互学習や交流のネットワークを県内全域に拡大していく方向で推進していくことが必要と考えられた。

文献

- 堀良子，山本澄子，熊倉みつ子他（2003）：医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ，新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書，71-74。
- 堀良子，水口陽子，松下由美子他（2004）：安全性・適切性の観点からの訪問看護における看護技術の現状と課題，新潟県立看護大学看護研究交流センター活動・研究報告書，81-87。